

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ステラ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児童の多くが同じ法人内にあることも園の児童であるため、園との連携が図りやすい。	・療育の送り迎えの時など、普段からクラスとの情報交換を行うようにしている。 ・十分ではないが、クラスの先生と現場の職員が集まって話をする時間は持っている。	・連携が図りやすいメリットをいかし、今以上にクラスとの情報共有を密にして、日々子ども支援につなげていく。 ・クラスの先生と会議の時間も定期的を持てるようにしていきたい。
2	・質の高い療育を提供できる。	・職員個々の強みも生かしながら、日々の療育を行っている。普段から口頭でのやりとり等、気になることや成長面など、コミュニケーションを図っている。 ・個別、集団療育を上手く組み合わせ取り組んでいる。言語聴覚士の専門療育、ミュージックケアの専門療育、外部講師を招いての勉強会の機会がある。	・研修や勉強会の活用など、職員個々のスキルアップを図っていき、療育の質を高めていきたい。
3	・ニーズが多い(利用者が多くなっている)、保護者に喜ばれている。	・開設して3年目であるが、年度途中から希望者が増えており、その都度調整を行いながら受け入れをしている。	・研修や勉強会の活用など、職員個々のスキルアップを図っていき、療育の質を高めていきたい。園とのやりとりもより密にしていき、クラスの様子や療育の様子などを共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域とのつながりが持ちにくい。	・法人内でのフェスティバルなど、行事と一緒に参加する機会にとどまっている。	・地域との関わりという点から何ができるのかを職員間で考えていく。
2	・保護者と直接会って話をする機会が十分に持てていない。	・利用児童の多くが、法人内の子ども園の児童であり、車での送迎も行っていないため、保護者との話をする機会が面談以外には持つことが難しい。 ・保護者からの要望があった際には、その都度、話をする時間は設けて対応している。	・保護者に直接会って話をする機会が少ないため、普段の連絡帳を丁寧に内容もより深く記入するようにすることを継続していく。 ・また、園の送りやお迎えで保護者にあつた際には子どもの様子を簡単にお伝えするなど、その機会も大切にしていきたい。
3	・他事業所との連携が十分に取れていない。	・相談支援事業などの会議や他事業所との交流の機会が少ない。	・他事業所や学校園などと積極的に関係づくりをし、会議などにも参加していく。